

《各県コーナー》

富山県の災害について

富山県土木部河川課防災係

1. はじめに

富山県は、本州の中央北部に位置し、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に隣接しています。市町村の数は、「平成の大合併」を経て、全国の都道府県の中では最も少なく、15市町村(10市4町1村)となっています。



富山県の市町村区分図

また、北は富山湾に面しており、ホタルイカ、シロエビ、ブリ等の海産物が豊富なうえ、蜃気楼が発生することでも有名です。その他の三方は、立山連峰等の急峻な山岳に囲まれ、この山々を水源に常願寺川、庄川、神通川等の河川が富山平野を流れています。これらの河川は、世界的にも有

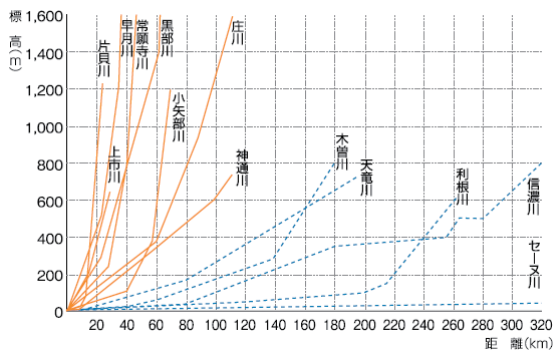
数の急流河川であり、これまでも数々の水害を引き起こしてきました。

そもそも富山県は、廃藩置県後の明治9年に石川県に編入されましたが、道路改修を主に考える石川側と、治水に重点を置く富山側とで、県予算の分配をめぐる対立したことから、明治16年に石川県から分県し、現在の富山県が誕生しました。このように、富山県の歴史は、「水との闘い」の歴史と言っても過言ではありません。昨年、置県130年の節目の年を迎えましたが、今後もより一層防災体制の強化に努めていきたいと考えています。

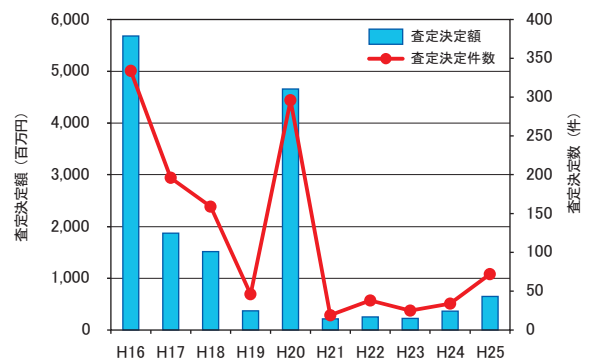
2. 災害の状況

近年は幸いにも比較的災害の少ない年が続いていますが、平成20年2月には富山湾特有の「寄り回り波」(うねり性の高波)や同年7月下旬の局地的な豪雨により甚大な被害が発生しています。

また、近年の集中豪雨の頻発や都市化の進行により、市街地やその周辺地域において浸水被害が発生していることから、富山県では緊急的かつ総合的な浸水対策を進めるため、市町村では「緊急浸水対策計画」を策定し、県と市町村との連携により重点的・効率的な対策の推進を図ることとしています。



河川縦断概略図



過去10年間の災害発生状況

《各県コーナー》



H20. 2.24入善町の越波状況（読売新聞社提供）



H20. 7.28一級河川小矢部川水系山田川の出水状況
(南砺市城端)

3. 平成25年災害の発生状況

平成25年に発生した災害に係る査定は、7次にわたり実施され、県と市町村を合わせて72件、約6億5千万円の採択を受けました。

このうち、特に被害が大きかった「8月23日～24日豪雨」及び「9月15日～16日台風第18号」により発生した災害状況について紹介します。

・ 8月23日～24日豪雨

8月23日から24日にかけて、日本海に前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、北陸地方では大気の状態が非常に不安定となりました。このため、富山県内の日降水量は多くの地点で200ミリを超える大雨となり、8月の1箇月分の平年の降水量を上回る地点もありました。富山市で1棟の床上浸水、高岡市や射水市など5つの市で55棟の床下浸水の住家被害が出たほか、氷見市や立山町では土砂災害発生の危険度が非常に高まったことから、避難準備情報が発令されました。

この豪雨により被災した箇所の中には、適当な迂回路がないものや、放置すれば背後地に甚大な被害を招くおそれ大きいもの等もありましたが、管理者として必要な応急工事を実施し、災害査定においても概ね申請どおり採択していただきました。



一般県道町山河原線（氷見市）

平成25年災 発生状況一覧

	県 工 事		市町村工事		合 計	
	(件)	(千円)	(件)	(千円)	(件)	(千円)
1次査定	0	0	5	16,871	5	16,871
2次査定	0	0	2	10,109	2	10,109
3次査定	9	93,123	17	63,810	26	156,933
4次査定	0	0	8	28,167	8	28,167
5次査定	12	171,367	10	74,565	22	245,932
6次査定	4	163,490	2	15,098	6	178,588
7次査定	0	0	3	12,680	3	12,680
全 体	25	427,980	47	221,300	72	649,280



市道田向湯谷線（南砺市平）

《各県コーナー》

・ 9月15日～16日台風第18号

台風第18号は、9月16日8時前、愛知県豊橋市付近に上陸し、その後、夕方にかけて関東甲信・東北地方を縦断しました。この台風により南から暖かく湿った空気が流れ込み、富山県内は15日の明け方から雨が降り出し、16日の夕方にかけて大雨となりました。特に16日明け方から朝にかけて山間部で激しい雨となり、16日の日降水量は、南砺市五箇山202.0ミリ、富山市八尾172.0ミリ（9月の極値）の大雨となりました。

この台風により、富山市を流下する直轄河川の神通川水系井田川においては、避難判断水位に到達するほどの大きな出水があり、県道橋（高善寺橋）が被災するなど、県内各地に大きな被害をもたらしました。



一級河川神通川水系山田川（富山市婦中町）



一級河川神通川水系井田川の出水状況



主要地方道富山庄川線（富山市山田）



主要地方道立山山田線高善寺橋（富山市八尾町）

《各県コーナー》

4. 研修等の取組み

・災害復旧事業実務講習会

富山県では、毎年、県及び市町村の災害復旧実務担当者を対象に、災害復旧事業の専門知識習得を目的とした「災害復旧事業実務講習会」を実施しています。

本研修では、災害復旧事業を担当している河川課防災係職員が講師となり、近年の災害査定事例の紹介や災害復旧事業でよくある質問についての解説等、実際の災害復旧実務に役立つ内容を多く取り入れて講義しています。また、国土交通省北陸地方整備局及び財務省北陸財務局からも講師を招き、災害査定のポイントやTEC-FORCE等の災害支援体制について講義していただきました。

講習内容が多岐にわたっていることから、災害復旧事業に初めて携わる職員からベテラン職員まで、熱心に受講しています。



平成25年度「災害復旧事業実務講習会」の様子

・防災会

河川課防災係には、防災係に所属したことのある現役職員が会員となる「防災会」という親睦会があります。この会は、災害復旧実務の技術継承を目的として、平成4年に発足したものです。



平成25年度「防災会」の様子

平成25年度の「防災会」においては、防災係OB・OG職員から現役防災係職員に対して、酔いも覚める厳しい指導がなされるとともに、過去の災害復旧事業についての思い出話に花が咲きました。現役防災係職員にとっては、昨年1年間の災害復旧事業を振り返るとともに、今後の災害復旧事業の取組みについて考える貴重な時間になっています。

5. おわりに

富山県は、近年、比較的災害の少ない年が続いています。しかし、全国的に局地的な豪雨は増加傾向であり、富山県でもいつ大災害が発生するかわかりません。今後も大規模災害時に迅速かつ適切な復旧対応がとれるようにしていきたいと考えていますので、国土交通省、財務省をはじめ関係者の方々には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今号の月刊「防災」は、第777号という切のいい数字を迎えましたが、今後益々防災や災害復旧に携わる方々に親しまれる誌面となりますよう切に願っております。